

インフラメンテナンス分野の実務家教員の育成 ～実務家教員育成研修プログラム（2022年度）と専門教士（建設部門）称号付与制度～

舞鶴工業高等専門学校 社会基盤メンテナンス教育センター	正会員	○嶋田 知子
舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科	正会員	玉田 和也
舞鶴工業高等専門学校 建設システム工学科	正会員	毛利 聡
香川高等専門学校 建設環境工学科	正会員	林 和彦

1. 目的

舞鶴工業高等専門学校社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）では、「KOSEN 型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築」（KOSEN-REIM）として、地方における建設技術者の技術レベル向上を目指し、高専におけるインフラメンテナンス分野のリカレント教育や建設業界における人材育成・技術継承を担う“実務家教員”の育成に取り組んでいる。本稿では、実務家教員育成研修プログラム（2022年度）の実施結果、及び、『専門教士（建設部門）』称号付与制度の創設について報告する。

2. 実務家教員育成研修プログラム（2022年度）の実施結果

本プログラムは、7講座、合計90時間（eラーニング30時間、講習会60時間）で構成される約8カ月間のプログラムである。開催概要を表-1に、受講者等を写真-1示す。対象は、インフラメンテナンス分野において高い実務能力と10年以上の実務経験を有する技術者とし、自ら実務家として培った実務経験や技術力を言語化し、教育の場で『教える』ための技術の修得を目指す。2022年度は、2021年度実証講座の評価結果を踏まえ、①受講者へのフィードバックを強化、②高専教員の教育ノウハウを提供する授業を拡充、③TA（2021年度修了生）による学修支援、の3点を改善して実施した。40～70歳代の計6人の熟練技術者が受講し、全員が全課程を修了した。受講者によるプログラム評価として、各講座終了時の評価・検証（記名）の総合評価を図-1に、全プログラム終了時の受講者アンケート（匿名）の集計結果を図-2に示す。いずれも高評価であった。各講習会終了時の受講者アンケート（匿名）により、受講者の目標達成感を評価した。第1回講習会（実務経験と専門性の棚卸講座）では「自らの実務経験と専門性を言語化・視覚化し、他者に伝えることができた」としたのは2人（ややそう思う）であったが、第5回講習会（実証講座教育実習）では「自らの実務経験・実務能力を活かした講義や指導を行うことができた」としたのは6人（強くそう思う4人、ややそう思う2人）となり、ほぼ全ての受講者が本プログラムの目標とする言語化・視覚化して伝える能力の向上を実感した。

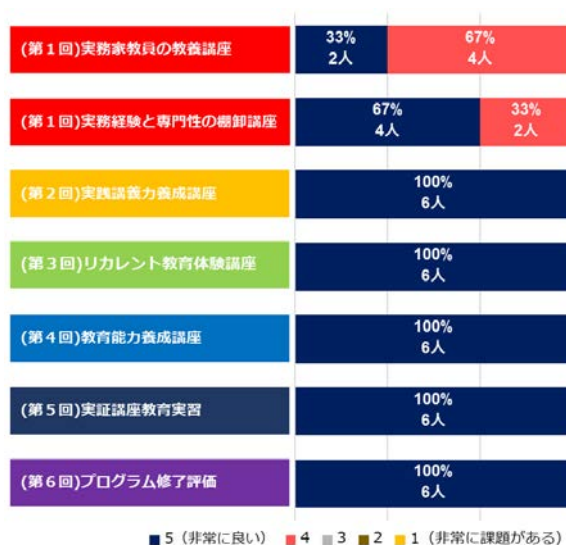


図-1 受講者による評価・検証（総合評価）

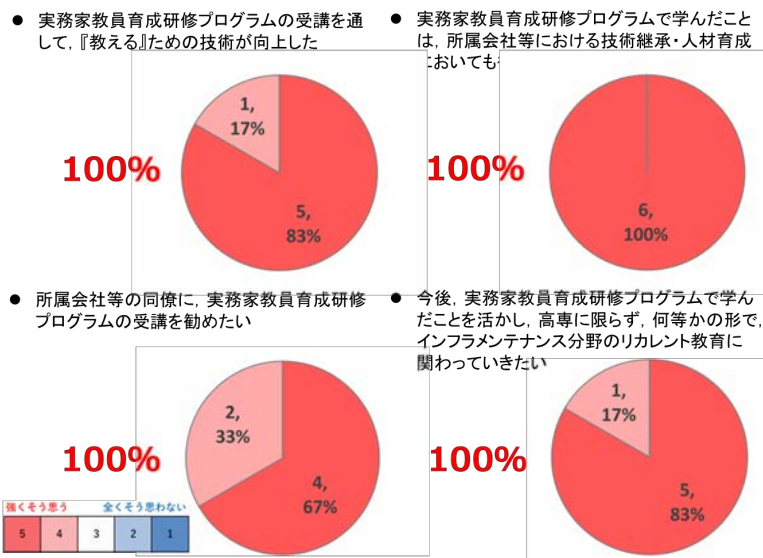


図-2 受講者アンケートの集計結果（全プログラム終了時）

キーワード 実務家教員、リカレント教育、インフラメンテナンス、人材育成、技術継承、専門教士（建設部門）
連絡先 京都府舞鶴市宇白屋 234 舞鶴高専社会基盤メンテナンス教育センター t.shimada@maizuru-ct.ac.jp

表-1 2022 年度開催概要

実務家教員育成研修プログラムを構成する7講座	eラーニング	講習会	
	受講開始	開催日程	開催方法・場所
1 実務家教員の教養講座	6月17日	第1回 7月9日	オンライン
2 実務経験と専門性の棚卸講座	6月17日	第2回 7月30日	
3 実践講義力養成講座	7月9日	第3回 9月17・18日	対面・大阪会場※
4 リカレント教育体験講座	8月26日	第4回 10月22・23日	対面・舞鶴高専
5 教育能力養成講座	9月30日	第5回 1月14・15日	対面・大阪会場※
6 実証講座教育実習	12月23日	第6回 2月4日	対面・舞鶴高専
7 プログラム修了評価	—		オンライン

※近畿建設協会会議室を借用

写真-1 2022 年度受講者・講師・T A
(第2回講習会 実践講義力養成講座)

3. 専門教士（建設部門）称号付与制度の創設

実務家教員育成研修プログラムの全課程を修了し、建設（社会基盤の整備及び維持管理）を専門とする実務家教員として適格と認定された者を『専門教士（建設部門）』（英語表記 Technical Teacher of Civil Engineering）に認定し、舞鶴工業高等専門学校長名で称号を付与する制度を、2022 年度に創設した。プログラム修了から称号付与までのフローを図-3 に示す。『専門教士（建設部門）』の称号を付与された実務家教員は、高専が実施するリカレント教育プログラムの講師として、現職とのパラレルキャリアの形成が可能となる。また、所属企業等での研修講師、建設業界における人材育成・技術継承の担い手として、活躍の場を広げることができる。

2022 年度は、高等教育や教員能力開発を専門とする有識者等で構成する実務家教員育成研修プログラム評価委員会（委員長：愛媛大学 中井俊樹 教授）において、専門教士（建設部門）認定基準に基づく認定審査を2回実施し、計21人（2021年度修了者15人、2022年度修了者6人）を適格と認定した。適格者には、専門教士（建設部門）付与制度実施要綱に基づき、『専門教士（建設部門）』の称号を付与し、登録証を交付した。称号付与者21人の年齢構成、及び、保有資格等を図-4 に示す。



図-3 専門教士（建設部門）認定・称号付与フロー

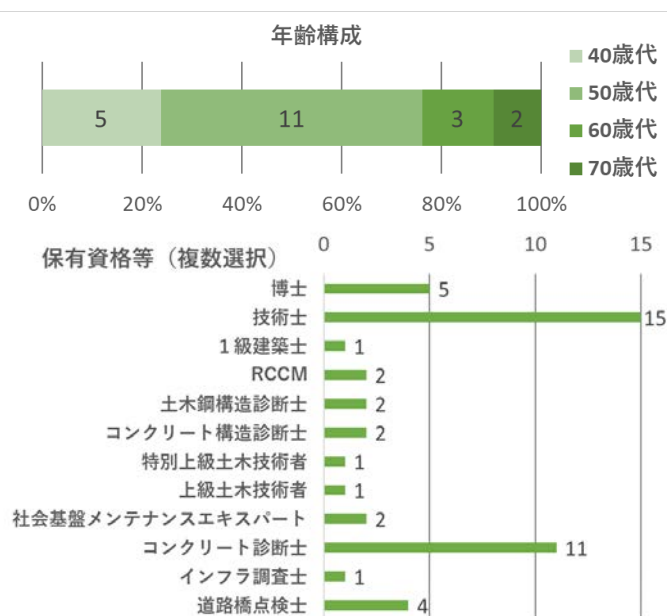


図-4 称号付与者の年齢構成・保有資格等

4. 継続教育

今般、修了者の継続的な学びと交流の場として「インフラメンテナンス分野の実務家教員による実践研究会」（JP-REIM ラボ）を立ち上げた。実務家教員の育成を継続するだけでなく、その成長と活躍を後押ししたい。謝辞 KOSEN-REIM は、文部科学省『持続的な産学共同人材育成システム構築事業』中核拠点の取組である。高専生対象の実証講座教育実習の成果については、2022 年度修了者がとりまとめ、本稿に続き投稿した。